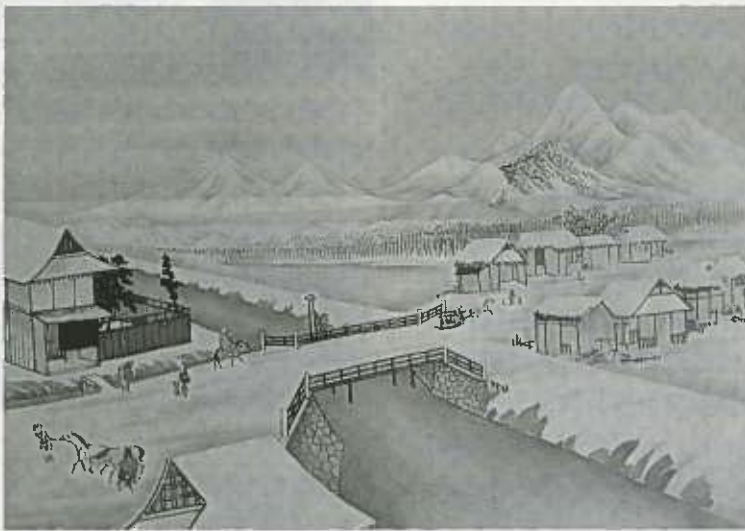


十和田市立 新渡戸記念館だより

盛岡市中央公民館のご厚意により掲載



三本木郷 稲生橋跡の川

鉄道沿線名勝図巻
川口月村(1845-1904)画
『三本木駅 稲生橋、稲生川』
(盛岡市中央公民館蔵)

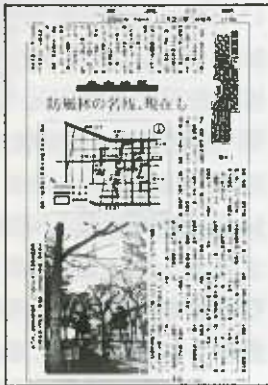
明治初期の元町と稲生川。橋のたもと左に、万延元年(1860)南部利剛公が三本木新駅をご視察の時、御本陣をつとめた肝入秀之丞(後の高岡権十郎)の屋敷「狂屋」が描かれています。

稲生川上水から6年後に制作 今よみがえる慶応元年の新田検地小絵図

昨年6月から今年まで絵図面約50点の裏打ち(補強処理)が完了しています。その中で、稲生川上水成功(安政6年・1859)から6年後の慶応元年(1865)に、初の新田検地のため制作の小絵図『北郡三本木村御取分新田内割小絵図』13枚全てが、この度裏打ちされました。

東奥日報の連載記事で紹介される

東奥日報では、11月20日から6回の連載記事『絵図面でのしる三本木原開拓』で「北郡三本木村御取分新田内割小絵図」13枚のうち「初田」「森下」「瀬戸山」「寺向」「金崎」の5か所の絵図面を紹介しました。連載の中では、それぞれの地区のもつ歴史的な背景の説明をするとともに、資料としてよみがえった絵図面から新たにわかったことをまとめ約130年前の発展する三本木の姿を描き出しています。



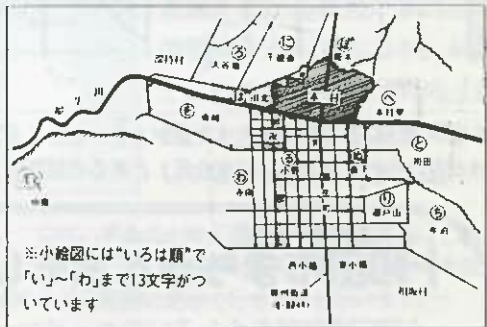
おんとりふんしんでんうちわり

北郡三本木村御取分新田内割小絵図

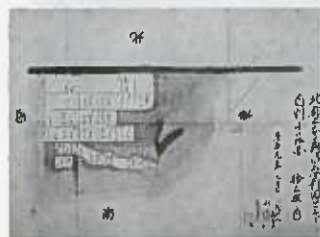
『北郡三本木村御取分新田内割小絵図』13枚は、慶応元年(1865)に三本木原開拓地域で初めて行われた検地のため制作の絵図面です。開拓によって新しくできた三本木村を13の地区にわけ、それぞれの田畑の仕付状況、耕作者、土地所有者名などを記

しています。これらの絵図は、同じくこの検地のために制作された大絵図(略称「北郡相坂村、深持村、三本木村、御取分新田慶応元年検地絵図」3.6m×2.6m)と対照させることで、それぞれの地域の名前と位置がわかるようになっています。

また、大絵図に対応する小絵図は三本木村13枚の他に相坂村6枚、深持村5枚があります。こちらは当時の相坂、深持地域における三本木原開拓の様子を伝えるもので、今後の裏打ち処理を待っています。裏打ち作業が進む中、新たな発見が期待されます。(2面で今回の発見をいくつか紹介します)



検地大絵図と対応する小絵図13枚の位置関係→



と印「初田」地区の小絵図



ち印「牛泊」地区の小絵図



『北郡三本木村御取分新田内割小絵図』
「瀬戸山」地区

のため制作の絵図面です。開拓によって新しくできた三本木村を13の地区にわけ、それぞれの田畑の仕付状況、耕作者、土地所有者名などを記



太素顕彰会評議員
十和田市教育委員会教育長 小野寺 一男

今年の8月、市の中学生海外体験学習派遣団を引率してカナダへ行ってきました。帰国後、生徒たちが現地で感動した事の一つに、ブリティッシュ・コロンビア大学の構内にある新渡戸記念庭園の見学を挙げております。生徒達は、この庭園が新渡戸稲造博士を敬愛する外国の人々によって設立されたことを知り、国際人として活躍した博士の偉大さにあらためて畏敬の念を深くしたようでした。私たち大人には、今後も様々な方法で青少年に新渡戸三代のご労苦を偲ばせるとともに、その進取の気性と開拓精神を伝える責務があると感じた次第です。



太素顕彰会評議員
十和田青年会議所理事長 布施 久

おかげさまで本年設立40周年を迎えました。ふるさと教育の一環として「新渡戸稲造杯弁論大会」を太素顕彰会のご支援を頂き開催しております。学校教育にも、住むまちの歴史を知り愛する教育、すなわち「ふるさと教育」が次代を担う子供たちに必要であると考えます。新渡戸家三代の偉業と開拓精神は、このまちに住む人々や、訪れる人々に語り継がれていかなければなりません。今後も私たちは新渡戸記念館のご指導のもと、ふるさと教育についても学び、明るく豊かな「ふるさと十和田」づくりに努めていきたいと思っております。

裏打ち絵図面★発見トピック★

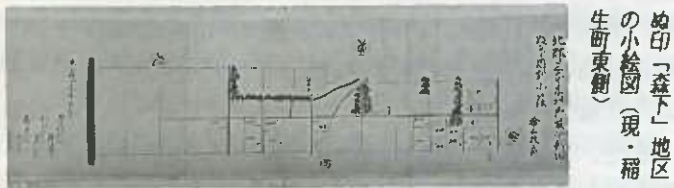
▶忘れられた「森下」「小野」の地名

今回一面で紹介した「北部三本木村御取分新田内割小絵図」13枚が資料としてよみがえったことで、慶応元年(1865)当時の三本木の地名について新しい発見がいくつかありました。ひとつが「森下」「小野」という、現在全く忘れ去られている地名の発見です。絵図からわかる二つの地域の範囲は「森下」が稲生町の東側一帯「小野」が西側一帯です。これらの地域は、万延元年(1860)から新渡戸十次郎を中心に行ったまちづくりの中で住宅

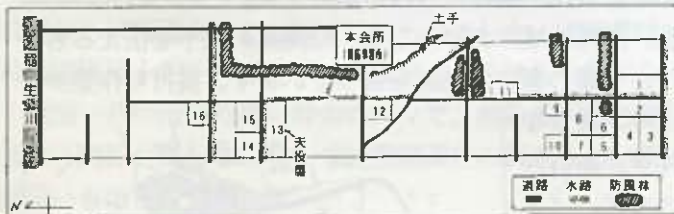
地として計画的に配置されたようです。絵図面を見ると当時森下に16世帯、小野にはまだ2世帯の入植だけでこの地域ができたばかりだったことを物語っています。

▶「並木」の地名はどこにあった？

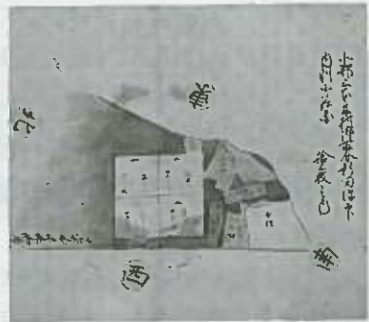
稲生町の南側、現在の「穂並町」が昭和39年まで「並木」「小稲」という地名で市民に親しまれていた事は記憶に新しいです。しかし、絵図面を見ると慶応元年当時の稲生町南側は「東小稲」「西小稲」で「並木」の地名は見当たりません。そのかわり、そこから約3.5km北の奥州街道(現国道4号)沿い、現在の北平付近に「並木」という地名があります。絵図には地名の由来となった並木も描かれており、これらは三本木原開拓が行われる30年ほど前に南部藩で植えたものと思われます。三本木原開拓時代、稲生町南側の街道にも松が植えられその成長の後にこちらが「並木」と呼ばれるようになったのでしょう。現在、その名の由来となった樹木は「並木」の地名とともに、どちらにも残っていません。



北平三本木村御取分新田内割小絵図(現・稲生町東側)



↑森下地区には16軒の家と夫役屋があり、ところどころに水路や防風林が設けられています。「本会所」とあるのは建設予定地です。



北平三本木村御取分新田内割小絵図(現・北平付近)

12月の新渡戸記念館ニュースより 十和田市まちかどおもしろ図鑑

十和田市にはおもしろいモニュメントがいっぱい!!
あなたはいくつ知っていますか?



十二月の新渡戸記念館
ニュースパネル



↑配電盤ボックスにも「鶴舞」のレリーフが



↑駒街道「桜の広場」の街灯は桜の花びら



→「産馬通り」の名を刻んだ松馬のアート石板

10月の新渡戸記念館ニュースより

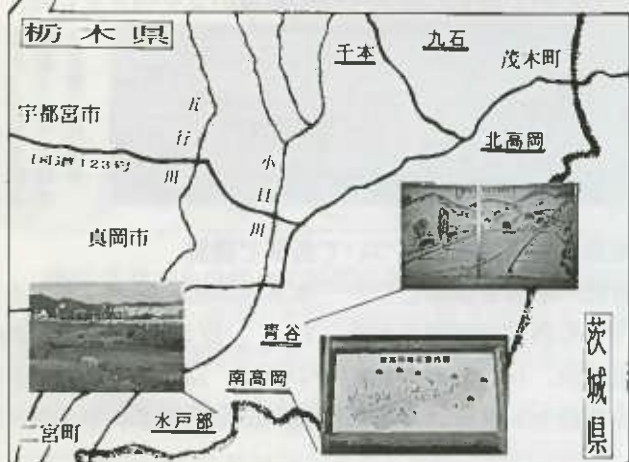
新渡戸氏ゆかりの地を訪ねて 2

12世紀末に 栃木県二宮町『水戸部』
拝領と伝わる 真岡市『南高岡』『青谷』

8月に宮城県志津川町で15世紀の新渡戸氏の事跡を調査しましたが、今回はさらに約300年さかのぼって12世紀末、源頼朝より拝領したと伝わる栃木県二宮町・水戸部真岡市・南高岡、青谷を調査しました。



直井稲造さんご夫妻とともに



『新渡戸氏系譜』によると、今から約800年前、奥州藤原氏の討伐のため源頼朝が奥州へ向かう途中、15代千葉常秀は、藤原泰衡の刺客を下野国(栃木県)新渡戸駅で討ちました。その褒美として、頼朝より新渡戸・高岡青谷を賜り、その後約140年間この地を領有し何代かは居住したようです。南北朝時代、一時的にその地を失いましたが、26代信盛の時将軍足利義教に本領安堵され再び新渡戸に入部(領地に入る事)しました。以来、この地にちなみ姓を「千葉」から「新渡戸」に改めています。

このことからわかるように「新渡戸」の地は、いわば新渡戸氏発祥の地です。しかし、現在その地名はなくこの場所がどこであるかについてはいくつかの説があります。今回調査した二宮町水戸部も、その内の一説ですが現在も地名が残っている他の領地「高岡」(真岡市南高岡)「青谷」(同市青谷)と隣接することからかなり有力な説と思われます。

調査レポート1 今後の課題としての茂木町調査

『那須郡誌』(昭和23年発行・蓮實長氏著)によると『系譜』に記されている当時の新渡戸氏菩提寺・「大英山法輪寺」は、もともと栃木県茂木町の九石にあったものが同町の千本に移され、「長安寺」と名を変え現存し

ているとの事でした。今回の調査でこの九石・千本の付近に「北高岡」の地名がある事がわかりました。しかし日程の都合上実地調査まで至らなかったため、長安寺や北高岡のある茂木町の調査が今後の課題です。

調査レポート2 直井稲造さんをたずねて

水戸部の旧家・直井家へは、昭和56年故新渡戸憲之館長と、夫人の稲子前館長が調査に訪れています。その時に現当主直井稲造さんから、新渡戸稲造博士も大正5年(1916)真岡での講演のおり直井家に立ち寄り先祖について調べたという事や直井さんの名前は博士訪問を記念して付けられた事など伺いました。また直井家裏山の巨石「日天・月天石」の話も聞き、その巨石と新渡戸氏に関連があるのか調べる事が課題として残っていました。今回その石を見る事ができ、制作年代や直井さんのお話などから、むしろ中世から江戸時代この裏山が修験道の山であった事に関係があるのではと思われました。

調査レポート3 『系譜』と『吾妻鏡』を比較して

源頼朝の奥州征伐の事は鎌倉幕府の歴史を伝える『吾妻鏡』の中に詳しく記されています。その中の文治5年(1189)の記載を見ると『系譜』にある通り頼朝が「関街道」を通って奥州にむかう途中、街道ぞいの「新渡戸駅」に泊まった事が書かれています。今回調査した二宮町水戸部は旧関街道に近い郷ですので、その点では一致しています。しかし『吾妻鏡』には頼朝は宇都宮から新渡戸駅経由で奥州へむかったとあり、もし水戸部を経由したとすると大きく遠回りをした事になります。方角的な面では他に新渡戸駅であったといわれている旧関街道ぞいの黒磯市「杉渡土」(「すぎわたど」とよみ古くは



「杉渡戸」と書いた)があてはまるようです。しかし『吾妻鏡』にある新渡戸駅周辺の地勢描写から考えると、杉渡土よりも那須町伊王野の「丹渡戸」が有力との説もあり詳しい調査が待たれます。

※今回の調査では二宮町の小倉尚誌町長、斎藤孝公民館長をはじめ皆様大変お世話になりました。感謝を申し上げますとともに今後も栃木県での調査をより広範囲に進めていきたいと思ひます。



十月の新渡戸記念館ニュースパネル

— 関 連 情 報 —

●「毎日新聞」の折り込み冊子『毎日夫人』10月号特集記事に当館紹介・同史跡探訪会一行が来館

毎日新聞折り込み冊子『毎日夫人』10月号に、「特集—秋本番—“五千円札のふるさと”と七色の紅葉をたずねて」として、6ページにわたり十和田市と十和田湖の特集記事が掲載されました。その中で五千円札の肖像新渡戸稲造の事や、その祖父・傳、父・十次郎



『毎日夫人』特集ページ

が中心となって行った三本木原開拓について詳しく述べられています。当館についても「三代の銅像が立つ記念館」として写真で紹介され、10月19日には「毎日夫人」史跡探訪会の皆さんが来館されました。

●10月1日から11月30日までの来館小学校

<十和田市>洞内小学校・北園小学校・南小学校<八戸市>新井田小学校・中居林小学校・桔梗野小学校・白銀南小学校・多賀台小学校・城下小学校・是川小学校<十和田湖町>奥入瀬小学校<上北町>第一小学校・小川原小学校<六戸町>七百小学校・長谷小学校<七戸町>倉岡小学校<百石町>百石小学校<南部町>平良崎小学校<南郷村>市野沢小学校

●第29回青森県吟剣詩舞道十和田大会で三本木原開拓の偉業をうたった詩吟『われに拓魂あり』発表される

本年9月29日十和田市民文化センターにて開催された県吟剣詩舞道十和田大会第二部で、三本木原開拓の偉業や新渡戸稲造博士の事が、企画構成・風見透氏による詩吟『われに拓魂あり』として吟じられました。出演者は日本国風流十和田吟詠会・天谷国史会長をはじめとする十和田・八戸市の吟剣詩舞会の方々に、故新渡戸憲之館長作「開拓百年記念の歌」や岩館精素作の詩をうたい感銘深いものとなりました。

●館長十和田警察署一日署長

十和田警察官友の会の一日警察署長体験(10月30日)で、会の理事である館長は副署長役をつとめました。魁名猛警察署長より辞令を受けた後7名の一日署長とともに警察幹部の方々と通常点検に立ち会い、各課の活動状

況を巡視し、警察の皆さんのご労苦を実感しました。

— 活 動 報 告 —

●第44回全国博物館大会に館長出席・日本郵船歴史資料館にて稲造博士乗船の「日枝丸」のその後を調査

今年11月6~9日横浜で開催された第44回全国博物館大会に館長が出席しました。その機会に同市の日本郵船歴史資料館を訪れ、昨年12月の記念館だよりで紹介した客船「日枝丸」について調査してきました。日枝丸は、昭和8年稲造博士が最後にカナダへ向かう時乗った船ですがその後太平洋戦争中輸送船として徴用され、昭和18年11月17日ブーゲンビリア沖で撃沈、不幸な運命を辿っていました。稲造博士の平和の願いと逆の悲惨な結果となりあらためて戦死した方々への鎮魂の念を抱きました。



第四十四回全国博物館大会へ各館から出席の代表者

●館長三本木原開拓について各地で講演

新渡戸館長を講師とした三本木原開拓に関する講演会が今年も各地で開催されました。(10/3・青森県退職教職員協会、10/19・市立十和田中学校、10/25・青森県総合社会教育センター、11/14・相坂川左岸農業水利事業所)

●“太素の杜”再生のための処置

今年6月衰弱のはげしかった記念館前の4本のもみじの蘇生処置が始められましたが、太素の杜全体が弱まっている事も指摘されていました。その再生のため、固くなった地面を掘り起こす等の土壌改良作業を江渡主任が中心に行っており、来春以降の効果が期待されます。

●市庁内広報誌『きずな』に所蔵品紹介記事を連載中

『きずな』8月号(No.84)より、「シリーズ新渡戸記念館探険」として佐々木学芸員が当館所蔵品の中から毎回一つを取り上げて紹介記事を書いております。

●太素塚元朝参り

太素顕彰会では、太素塚への元朝参りの方々に毎年恒例のお神酒とおいしい甘酒の無料サービスを行ってまいります。皆様のおいでをお待ちしております。

— 編 集 後 記 —

沢山の絵図面は裏打ち作業を待っています。140年もの時を経て日の目を見る感激はひとしおです。本紙も一層充実を図るよう努めていきたいと思っております。皆様には良いお年を迎えられますよう、お祈り致しております。

発 行 十和田市立新渡戸記念館

〒034 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

印 刷 有限会社 岩間印刷所